



新ドメイン対応ガイド ～ VeriTrans4G POP ～

Ver. 1.0.0 (2024年1月～)

目次

1 はじめに	3
2 バックエンドの対応	3
3 フロントエンドの対応	3
4 ブラウザの画面遷移に関する補足	4
5 参考資料	4

新ドメイン対応ガイド~VeriTrans4G POP~

改訂履歴

2024/1 : Ver1.0.0 リリース

1 はじめに

本ガイドでは VeriTrans4G POP における接続先ドメインの変更方法を説明します。
通常は主に以下の2点の変更が必要となります。

- ✧ バックエンド（加盟店サーバー）で API を呼び出す際のエンドポイント URL のドメインの変更
- ✧ フロントエンド（JavaScript）でインクルードしている `pop.js` の URL のドメインの変更

2 バックエンドの対応

加盟店システムの実装をご確認いただき、バックエンドの処理で API 呼び出しを行っているすべての箇所について、エンドポイントの URL を新ドメインのホスト名に変更してください。

旧ドメイン： <https://pay.veritrans.co.jp/> . . .
新ドメイン： <https://pay3.veritrans.co.jp/> . . .

通常、TLS 通信で問題が発生することはありませんが、証明書の検証に失敗する場合は、実行環境の証明書ストアに DigiCert Global Root G2 証明書が含まれているかご確認ください。

注) POP のすべての API 呼び出しについて変更が必要になります。

POP 画面を開くための `payment_key` の取得だけでなく、リンク生成機能、会員管理機能、カード決済の後続処理（売上、キャンセル、再取引等）につきましても、忘れずに変更をお願いいたします。

3 フロントエンドの対応

加盟店システムの実装をご確認いただき、Javascript 内で include している `pop.js` の URL を新ドメインのホスト名に変更してください。

旧ドメイン： <https://pay.veritrans.co.jp/pop/v1/javascripts/pop.js>
新ドメイン： <https://pay3.veritrans.co.jp/pop/v1/javascripts/pop.js>

4 ブラウザの画面遷移に関する補足

本人認証（3D セキュア）を実施する場合、認証処理の過程でブラウザから決済サーバー（<https://api.veritrans.co.jp>）に遷移しますが、決済サーバーのドメインも新ドメイン（<https://api3.veritrans.co.jp>）に変更になります。この遷移 URL については弊社にて切り替えを行いますが、当面の間は旧ドメインに遷移することになります。

加盟店サーバーからのアクセス URL のドメインを新ドメインに変更しても、決済サーバーへの接続は旧ドメインにアクセスする状態が続きますが、これは正常な挙動ですのでご安心ください。

2025 年 2 月までにはすべての接続が新ドメイン環境に切り替わります。

5 参考資料

- 新ルート証明書 :DigiCert Global Root G2 (S/N: 033af1e6a711a9a0bb2864b11d09fae5)
<https://cacerts.digicert.com/DigiCertGlobalRootG2.crt.pem>
- SSL/TLS サーバー証明書のルート証明書、および中間 CA 証明書変更に関するご案内
<https://knowledge.digicert.com/ja/jp/generalinformation/INFO2525.html>
- レポジトリサイト(公式)
<https://www.digicert.com/kb/digicert-root-certificates.htm>